

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	流体力学特論	
科目基礎情報							
科目番号	0028			科目区分	専門 / コース選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	総合イノベーション工学専攻（エネルギー・機能創成コース）			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書：ノート講義 参考書：“FUNDAMENTALS OF FLUID MECHANICS”, Bruce R. Munson et. Al. , (WILEY)						
担当教員	近藤 邦和						
到達目標							
英語の教科書を参考にして学習し、静水力学、連続の式、ベルヌーイの方程式、運動量の法則および” Control Volume ”の概念を理解でき、問題に応用できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	流体力学は、空気や水に代表される“流体”の静力学と動力学を理論的に取り扱うことを主とする学問である。「流体力学特論」では、英語の教科書を参考にして、流体力学において重要な「静止流体」、「連続の式」、「ベルヌーイの方程式」、「運動量の法則」について学習し、それを応用して問題を解く力を身につける。さらに、英語での専門用語の知識も身につける。						
授業の進め方・方法	・すべての内容は学習・教育到達目標(B)＜専門＞とJABEE基準1(2)(d)(2)a)に対応する。 ・授業は輪講形式で行い演習を課す。 ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。						
注意点	＜到達目標の評価方法と基準＞ 流体力学特論に関する「到達目標」1～5の習得の度合を中間試験、期末試験、課題により評価する。評価における「知識・能力」の重みは概ね均等とするが、1, 2は基礎知識として他の問題にも含まれる。5については全ての問題に関係する。各試験において、合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。 ＜学業成績の評価方法および評価基準＞ 中間試験と定期試験の2回の試験の平均点を80％、課題の評価を20％として評価する。ただし、中間試験で60点に達していない者には再試験を課し、再試験の成績が中間試験の成績を上回った場合には、60点を上限として中間試験の成績を再試験の成績で置き換える場合がある。 ＜単位修得要件＞課題を全て提出し、学業成績で60点以上を取得すること。 ＜あらかじめ要求される基礎知識の範囲＞本教科は水力学や流体工学の学習が基礎となる教科である。 ＜自己学習＞授業で保証する学習時間（中間試験を含む）と、予習・復習および演習レポート作成に必要な標準的な学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 ＜備考＞数式の背景にある、物理的意味を理解することが重要である。授業は輪講形式で行うので、各自担当箇所を予習してくる。また単位制を前提とし、自宅での学習の時間を保証するための演習問題を課題とするので、期日までに必ず提出すること。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Pressure at a Point		1. 「流体力学」に関する英語の専門用語が理解できる。 2. 静水力学について理解し、問題に応用できる		
		2週	Basic Equation for Pressure Field		上記1, 2		
		3週	Pressure Variation in a Fluid at Rest		上記1, 2		
		4週	Manometry		上記1, 2		
		5週	Hydrostatic Force on a Plane Surface		上記1, 2		
		6週	Newton’s Second Law		3. 連続の式、ベルヌーイの方程式を理解し、問題に応用できる。		
		7週	F=ma Along a Streamline		上記3		
		8週	前期中間試験		上記1～3		
	2ndQ	9週	中間試験の解答と試験範囲の総復習		上記1～3		
		10週	Conservation of Mass—The Continuity Equation(1)		上記1. および4. 運動量の法則を理解し、問題に応用できる。 5. “Control Volume”の概念を理解できる。		
		11週	Conservation of Mass—The Continuity Equation(2)		上記1, 4, 5		
		12週	Derivation of the Linear Momentum Equation		上記1, 4, 5		
		13週	Application of the Linear Momentum Equation(1)		上記1, 4, 5		
		14週	Application of the Linear Momentum Equation(2)		上記1, 4, 5		
		15週	英文での演習問題		上記1, 4, 5		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	発表	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
配点	80	20	0	0	0	0	100